

■実践教科：グローバル探求(学校設定科目)／LHR

■指導時数：5時間

■対象学年：高校2年生

■対象人数：40人

◆教師海外研修を通して感じたこと

グローバル探究コースの担任となって一年が過ぎた頃、私は生徒に何を教えることができたのかという問題意識が出発点となり、清水の舞台から飛び降りる覚悟で申し込んだ。職場の同僚も家族も快く了解してくれたが、皆に迷惑をかけてまで、本当に参加してよいのかと常に自問しながらの研修であった。

そしてその結果は、人生の転機ともいえるべき、きっかけを与えてくれた。人と出会い、新たな世界に足を踏み入れる中で、頭でっかちになって考えることよりも、まず動いてみるのが大切だということを知った。そしてその次に、動いた位置から見えてくることを元に、できることを考えていけばよいと考えられるようになった。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ◆生徒の視野を広げるために、どうすればよいのか、頭の中で考えるばかりで行き詰っていた。
- ◆授業方法が画一化し、固定化した捉え方に陥りつつあった。
- ◆忙しさを理由に、人間関係が教師ばかりに偏りつつあり、ものの見方が狭まりつつあった。
- ◆教材研究と部活動とで日々が過ぎ、自らの視野の狭さを感じていた。

AFTER

- ◆まず行動することの大切さを再認識し、生徒にもよい影響を与えることができた。
- ◆事前研修や事後研修によって、授業方法の選択肢が広がった。
- ◆青年海外協力隊の方を含めた、現地で活躍する方々と出会うことや、過去に教師海外研修に参加した先生方とつながりができた。
- ◆自分の教師生活を、客観的に見られるようになり、現在の生活の意義を再認識できるようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1)実践の目的/背景

高等学校で学んでいく中で、自分の学んだことがどう生きるのか、またどう生かすべきなのかを、生徒に考えさせたかった。そのためには、広く社会でどんな問題が起こっているのか、そして、どんな力が求められているのかを知っておく必要がある。しかし、高校一年生が終了した時点では生徒の国際問題・社会問題への関心は薄く、どうすれば外へ広く目が向けられるか、その答えを模索していた。

一方、私自身も生徒に関心を持って欲しい点とは言えば、国際関係を見通した上での進路研究・経済問題探究などと漠然としていた。そこで結局、ベトナムに行ってきたことを切り口にして、国際問題はわれわれの生活とどう関わり、更に今後どう関わっていくのかということを考える視点を与えることに目標を置いた。

尚、対象生徒は、グローバル探究というコースで学ぶ生徒であり、2学期には、アジア・アフリカの諸問題というテーマで、調べ学習と発表を行っている。よって、私の授業は、その授業の中で行わせてもらったものが計3時間（2・4・5時限目）、人権や進路のLHRの中で行ったものが計2時間（1・3時限目）となっている。

(2)授業の構成

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|---|---|---|
| 1時限目 ベトナムに興味を持つと共に、日本について知っていることを見つめ直す | <ul style="list-style-type: none">ベトナムについて知っていることを述べるベトナムで聞いてみたいことを考える自分の将来の夢を文章と絵に書く(宿題) | <ul style="list-style-type: none">プリント (ベトナムについてのアンケート) |
| 2時限目 ベトナムの問題点と日本の関わり | <ul style="list-style-type: none">スライドを見せながら、ベトナム紹介クイズ三枚の写真を使い、そこから読み取れるものをグループごとに発表する(フォトランゲージ)問題点を整理し、意識するまとめとして、解決法の示唆問題解決に活躍している人々の紹介 | <ul style="list-style-type: none">ベトナムの土産 (Tシャツ・帽子など)パワーポイントによる動画と写真写真(A4版)模造紙 |
| 3時限目 他国と日本との比較から、日本という国を見つめ直す。 | <ul style="list-style-type: none">ベトナムでのアンケート結果と、他に米国・中国・韓国における学習時間の比較資料を用いて、違いを考え、日本の高校生である自分たちの状況を客観視する。ベトナムの日本語能力試験の問題をする | <ul style="list-style-type: none">プリント日本語能力試験2級受験問題集 |
| 4時限目 国際協力の一つの形について考える(1) | <ul style="list-style-type: none">元青年海外協力隊の方を招き、現地の様子や、活動内容、抱える問題などを紹介質疑応答 | <ul style="list-style-type: none">パワーポイントによる写真ビデオ・ワークシート |
| 5時限目 国際協力の一つの形について考える(2) | <ul style="list-style-type: none">世界の経済状況について、簡単に説明BOPビジネスについて考える日本ができることについて、考える | <ul style="list-style-type: none">パワーポイントによる写真 |

2. 授業の詳細

1時限目 「ベトナムに興味を持つ」

■目標

ベトナムに興味を持つと共に、日本を見つめ直す

■内容

担任がこの夏にベトナムに研修旅行に行くことを紹介

現地で小学校や中学校を訪問し、アンケートをとることを説明

- ①ベトナムについて知っていることを述べさせる。
- ②ベトナムで聞いてみたいことを考えさせる。
- ③自分の将来の夢を文章と絵に書かせる。(宿題)

<ココがポイント>

出発前のこの時期では、自分自身にも研修のイメージがつかめず、手探りでアンケート実施だった。

また、授業時間の確保も難しかったので、人権HR(「ちがいのちがい」という教材)のまとめの時間を充てて、研修旅行に行く事実の紹介とアンケートの依頼を行った。

◎生徒の反応(アンケートの質問内容に入れて欲しいという要望のあった項目)

- ◆ベトナムのいいところは、どこか
- ◆ベトナムの人は、日本のことをどう見ているか。
- ◆ベトナムの人の一日の学習時間は？
- ◆ベトナムの人は、どんな習い事をしているか。

◎所感

人権HRは、開発教育と根本の部分で重なっており、連動させて授業するにはとても使いやすい時間だった。グループ学習により、主体的に、そして互いに学び合う授業形態は、そのまま通じ合う手法であったので、事前研修で行ったワークショップが役に立つ面が多かった。

2時限目 「ベトナムの問題点と日本の関わり」

■目標

ベトナムの問題点から、我々ができることは何かを考える

■内容

「ベトナムってどんな国？」

- ①事前アンケートとの比較から、ベトナムを紹介する。

パワーポイント

- ・バイクが多い(図①)
- ・フォーがおいしい
- ・ベトナム戦争のイメージ

- ②ベトナムの特長の紹介。

パワーポイント

- ・フランス文化の影響(ベトナムコーヒー図②・バインミー)
- ・中国文化の影響(漢字文化の名残)
- ・社会主義国家→ドイモイ政策(市場主義経済の導入)



ホーチミン市内(図①)



ベトナムコーヒー(図②)

<ココがポイント>

導入は楽しくしようと、ベトナムの笠をかぶり、ベトナム国旗Tシャツで登場した。当日の講師が、担任の私だというのは丸秘事項にしていたので、生徒達はいきなり「シンチャオ」と挨拶して変身した担任が登場するサプライズを楽しんでくれた。

③ベトナムは、「途上国」という問題提起

パワーポイント

- ・「開発援助委員会」は、低所得国と定義 (= GNI825ドル)
→ 問題は、どういうところにあるのか？

④フォト・ランゲージの手法を使い、三枚の写真から気づくことを模造紙に書かせ、発表させる。



図③ 牛のいる道



図④ ある村の炊事場



図⑤ ある家具工場の現場

<ココがポイント>

写真は、各班に一枚ずつを配った。まずは、写真に写っているものを全て模造紙に書き出させて、発表。次に日本との違いに気づいた点を発表させた。正解はないので、全て答えとして拾い上げた。生徒が教授者の予想を超えた、深い読み取りをすることもあって、面白かった。

⑤写真から読み取れることのうちのの一つについて紹介する。

ビデオ

- 図③ 「道」の重要性 = 排水設備が整わず、雨水が溜まり、揺れるバスの動画
- 図④ 「水」の重要性 = ある村の水瓶(雨水を溜めて、飲用水にしている)の動画

スライド

- 図⑤ 「安全」の重要性 = 家具製作の現場(Minh Phuong Furniture Company Ltd)の紹介
→ 製作工程 → 完成品は、日本へ → 低価格を求める消費者が、製作現場における労働者の低賃金・過酷な労働条件を許容している。
→ 消費者としての役割 = ネガティブ・スクリーニング、ポジティブ・スクリーニング

スライド 日本の家具売り場と、粗大ゴミの様子



よく見るとベトナム製と書いてあります



以前に比べると、随分安くなりました



廃棄処分のサイクルが早まっています

⑥まとめ

- ・ベトナムは「途上国」か？
三つの「み」・・・ みち(道)・みず(水)・み(身)の安全が確保されていない。→ 開発「途上」
- ・我々にできること(関連する学問)

経済学、環境学、保健衛生学、法・政治学、国際関係学など、実は幅広い。

・最も必要なのは、コミュニケーション能力と共感力

⑦最後に

・ベトナムで生き生きと活躍する人々（私がベトナムで出会った日本人）の紹介
JICAボランティア JICA技術専門家 など

■生徒の感想

- ◆ベトナムでは、日本のように水がたくさんなく、みんなで協力して水を大切にしている姿が印象的でした。同じ世界の中でも各国で抱えている問題は違うんだなと思いました。
- ◆普段の生活では意識していなかった国のことが少し分かった。日本人が何人も向こうで支援の仕事をしているのには驚いた。
- ◆私の筆箱の中にもたくさんのベトナム製品があることに気づきました。そして私は、ベトナムを含めたたくさんの国の人々の力によって私たちの生活が成り立っているのだと思い、先生の授業の通り、消費者である私たちが、その人達を労働ばかりの生活から逃れられないような環境をつくってしまっていると感じました。
- ◆実際に行動を起こしてベトナムに行った先生が頑張っている姿を見て、私もこのままではいけないと思いました。

◎所感

この2時限目の授業内容は2時間分ある。つまり、ベトナムで体験したことの紹介を1時間かけてじっくり行って興味付けをし、そして次の1時間でベトナムの問題点を考えるというのが、本来の展開だと考えられる。しかし、使える時間が限られているため、2時間の内容を1時間で一気にこなした。駆け足で進んだ感じはあるが、逆に言えば、密度が濃く、生徒は弛緩する時間もなかったもので、印象深かったのではないかと期待している。ただし、ベトナムの問題を自分の問題としてじっくり考えるところまではとても届かず、次に自らの問題として考えさせるためにどうすべきかという課題が残った。

3時限目 「他国と日本の比較から日本を見つめ直す」

■目標

我々が学習をしていることの意味を客観的に見つめる。

■内容

- ①現地で行った、ベトナムの大学生や中学生による、将来の夢のアンケートを紹介
- ②日本・韓国・中国・米国の中・高校生の学習時間比較アンケートの紹介
- ③ベトナムの日本語能力試験2級受験問題集を解く。
- ④日越人材協力センターで日本語を学習している様子の紹介

<ココがポイント>

中間考査前のLHRに自主学習時間があったので、初めの20分だけを使うと言って（実際は30分以上かかったが）、ベトナムでのアンケート結果を紹介した。世界の中・高校生が学習に励んでいるという現状、ベトナムでは日本語を熱心に行っているという事実を知らせ、中間考査への意欲を高めさせようと考えた。

■生徒の感想

- ◆ベトナムの人の書いた、日本についてのイメージとかが、私たちにもわかるように日本語で書かれていたことに驚きました。ベトナムの人は勉強熱心だなあ……。

4・5時限目 「国際協力の一つの形について考える①・②」

■目標

国際協力を行ってきた方の話を聞いたり、現在注目されているBOPビジネスについて学んだりすることを通して、自らができることを考える。

■内容

①元青年海外協力隊(スリランカ・バレーボール指導の松本玲奈さん)の話を聞く。

1. 協力隊活動をダイジェストにしたスライドを見る。2. 質疑応答。

②元青年海外協力隊(セネガル・村落開発普及員の山口亜紀さん)の話を聞き、質疑応答をする。

1. セネガルの問題点 2. 質疑応答。

<ココがポイント>

国際協力の現場を知るために、元青年海外協力隊の方をお招きし、出前講座を行った。生徒と年齢も近い方であったので、生徒達は自分とのつながりをイメージしやすかったと思われる。スポーツ指導と農村開発という方法の違いは、青少年の教育と生計を立てる方法の開発という具体的な目標の違いでもあり、アプローチの仕方の多様性を知ることもあった。

③BOPビジネスについて考える。

1. 巨大化したグローバル経済と、途上国の経済規模の対比を示し、国際協力に必要なのは「金」ではなく、「人の力」だと説明。

(以下パワーポイント抜粋)

「パンがなければ、お菓子を食べればいいじゃない。」

by マリー・アントワネット

フランス王妃による、貧困に苦しむ庶民の現実を知らない発言として、有名

アメリカの一企業の借金は、日本の国家予算に迫り、セネガルの国家予算の8000倍

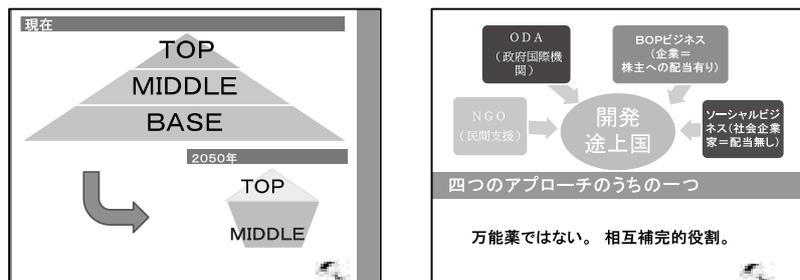
| | |
|-----------|--------|
| セネガルの国家予算 | 0.0088 |
| リーマンBrの借金 | 61 |
| 日本の国家予算 | 88 |

我々が、力点を置くべきことは・・・
ただ、金を出すことなく

人の力による、地道な活動。

2. BOPビジネスについて説明した新聞記事を段落ごとに分けて短冊にし、順序をバラバラにしたものを正しい順序に並べる作業をさせる。グループごとにスピードを競わせる。

3. BOPビジネスの説明とまとめ。



4. BOPビジネスの起源は、日本のヤクルトレディにあると説明。

▶ユニリーバ社の石けん(インド)
 ▶フィリップス社の薪ストーブ(インド)
 ▶グラミン銀行の、マイクロ・ファイナンス
 (バングラディッシュ)

| 企業名 | 対象国 | 事業内容 |
|--------------|-----------|------------|
| ①味の素 | ガーナ | アミノ酸栄養補助食品 |
| ②ソニー | インド | 発電・充電 |
| ③住友化学 | ケニア | 熱帯症感染撲滅 |
| ④テルモ | アフリカ | 血液パック供給 |
| ⑤日立製作所 | インドネシア | 太陽光発電 |
| ⑥瀬川醸造・日本ポリグル | バングラディッシュ | 水質浄化剤の普及 |

日本の具体的取り組み

経済産業省委託事業 採択候補プロジェクト (一部抜粋)

日本企業は、BOPビジネスに注目！しています
しかも、元祖は日本のヤクルトレディ？

5. ヤクルトレディを取材した内容の紹介・説明。

ヤクルトレディとは

S38より、スタート。
ヤクルトレディは、各人が
小売店という形態で、
独立採算されています。

ヤクルトレディとは

その結果、
女性に所得と自立を
もたらしました。

ヤクルトレディの皆さんです。

6. 「国際協力においてできること」は、よく見ないと見えてこない。が、実は意外と近くにあるかもしれない。

楽しいところは、

- ・いろいろな人に会えることです。
- ・元気をもらえた！と言ってもらえること。
- ・「ご苦労様」と言ってもらえて、疲れがとんでいきました。

大切なのは、

- ・「人柄でしょうか。」
- ・「挨拶が大切。」
- ・「やっぱり、元気です！！」

まとめ

よく見ないと、できることはみえてこない。それは、意外と近くにあるかもしれません

■生徒の感想

- ◆ マリーアントワネットの例で、お金を出しさえすればそれでいいという考えが間違いなんだとよく分かりました。
- ◆ 日本の企業が、世界に貢献していることは私たちにとっても誇りに思えることだと思います。
- ◆ 支援とは何なのかを考えさせられました。その国の人々が自立できるような支援の仕方を考えていきたいと思います。
- ◆ これからの企業は、ただ自らの営利を求めただけではいけない。財力、影響力を持つからこそ、社会に還元していく努力が必要になる。

3. 成果と課題

生徒は「グローバル探究 I」という授業で、2学期からアジア・アフリカの貧困問題について調べ始めたため、生徒の国際問題への理解度は、日を迫うごとに変わってきていた。そのように変化する生徒を見ながら、授業の目標設定をどこに置かか最も難しいところであった。国際問題に興味を持つことが第一段階、それが知識として定着し、自分の現在の生活に深い関わりを持っていることに気づくことが第二段階、更には今後の自分の生き方にも関わりを持つてくるという視点を持つことができるようになるのが私の考える最終目標である。生徒の感想を読むと、第二段階や最終目標に到達した生徒もいるが、生徒それぞれの関心度の深浅や人生

観の相違もあるので、それぞれが自分の生き方との関わりを見つめていくようになるためには、これから生徒の心の中での、時間による発酵が必要だろう。

事前研修で、過去に教師海外研修に参加された先生方の話を聞くことができ、大切なのは生徒の心を動かすことだと伺っていた。今回その生徒の心が動く瞬間を感じることができたのは、元青年海外協力隊員の出前講座である。村落開発や、スポーツ指導という活動内容のお話が生徒の世界を広げたのはもちろんだが、それに加えて、海外に単身で派遣され活動してきた講師の方の生きざまが、語り口や姿勢に現れて、一人の人間として共鳴する部分があったのではないかと思われる。今回の講座では確保できた時間が短かったが、講師の方の生き方にもっと多くの生徒が触れるような仕掛けを作れないかというのが次の課題である。

最後に、私が提示したBOPビジネスというテーマについて考えたことについて触れておきたい。グローバル経済における、このBOPビジネスという形も、ピラミッドの底辺の40億人に働きかけるという視点を持たなければ、貧困者をビジネスの対象にした新たな搾取の形態に成り下がる一面も持つ。つまり、同じ行為であっても、国際問題の視点を持つか持たないかで全く異なるとらえ方になってしまうのである。その意味で、消費者としての現在の行動も、一企業の社員として働く将来の行動も、共にベースにある視点が大切だといえる。したがって、世界を広くとらえる視点を生徒に与えることこそがこの国際理解教育の要だと考えてきた。しかし、残念ながら教授者である私自身に、世界の構造が見えておらず、授業準備と同時進行で学んでいる状況であった。おそらくこれからも生徒と共に学んでいくことばかりだろう。課題は、何より自分自身だとも言える。まだこれから学んでいくべきことが多い中で、特に今回開発途上国という定義を考える際に、経済とは何かという問題にぶつかった。世界を揺るがしている金融危機には、金融工学という学問が関わっている。そこを授業に取り込んで現在の経済状況を把握したいと考えていながら、不勉強な私はうまく扱うことができなかった。この問題を考えていくことも、次の課題である。

参考資料・参考文献

- 「現代ベトナムを知るための60章」今井昭夫 他編著(明石書店)
- 「世界から貧しさをなくす30の方法」田中優 他編(合同出版)
- 「中学生・高校生の生活と意識調査報告書」(財団法人 一ツ橋文芸教育振興会 財団法人 日本青少年研究所)
- 「ベトナム・日本人材協力センター 日本語コース Newsletter 第22号」
- 「人と経済の世界地図」世界銀行東京事務所監訳(丸善株式会社)
- 「日本語能力試験2級受験問題集」Minh Dung 編
- ・参考ホームページ URL
 - <http://www.SugawaraOnline.com>
 - <http://www.asahi.com/business/topics/column/TKY200911200501.html>
- ・取材をさせて頂いた方:兵庫ヤクルト販売株式会社 GR推進室マネージャー谷舗さん ヤクルトレディーの皆さん

参考 ベトナムでのアンケート項目

1. 年齢 2. 性別 3. 日本のイメージは、どのようなものですか？
4. ベトナムのいいところを紹介して下さい。
5. 何をしているときに、一番楽しいですか？
6. 普段はどんな勉強をどのようにしていますか？また、習い事などもしていたら教えて下さい。
7. もし自分が何でもできるとしたら、どんなことをしてみたいですか。
8. あなたの将来の夢はなんですか？ その様子を絵にして下さい。